

C-82 和服構成の諸要因(その7) -和服地3種類の着衣時の形状-

大妻女子大家政 木野内清子 ○金谷喜子 笹本信子 春山委佐子
柳築昌子

目的 前報までは、ひとえ長着の着用前後の変化および着衣時の空隙をモアレ計測法により考察してきたが、引き続き今回は、ひとえものの着衣時の状態を材質別に、着衣静止状態および若干の動作を加えてその状態を考察するため本実験を試みた。

方法 材料は白着尺地 綿100%(ゆかた地)、ウール100%・絹100%(ちりめん)の3種類を用い、ひとえ長着下部半身を被験者に合わせて作製し、一定条件で着衣させモアレ法により、前後・側面を測定した。

結果 3種類の布の特質がモアレ縞に表われているのが認められた。剛軟度大の綿・ウールでは波状の入り組んだモアレ縞を呈し、剛軟度小の絹は、なだらかなモアレ縞がみられた。また動作時においても同様の結果を得た。前報で下着が整容の役目を果しているという結果を得たが、今回も下着着衣時と下着なしとの差がみられ、その裏づけを得た。